

学校保健委員会の活性化に向けて

Toward activation of a school health organization

白金 俊二

Shunji SHIRAKANE

要旨

本研究は、長野県中信地区小学校の学校保健委員会の近年の内容をまとめ現状について報告し、参加者への質問紙調査により学校保健委員会の活性化に繋げる資料を得ることを目的とした。

学校保健委員会は、毎回何らかのテーマが設定され年1回開催されている。また、報告・討議・講話・講演など様々な形で行われていた。反面、年1回開催されていながら特に保護者の認知度は必ずしも高くなく、教職員が最も気になる健康課題と感じていることが保護者にとってはそれほど感じられていないなどの相違が見られ、双方の問題意識に差が感じられた。また、会を企画推進する保健主事は、最も苦慮することに「テーマや内容を定めること」を挙げており、テーマや内容をどのように定めていくかがこの学校保健委員会の活性化に向けての大きなポイントになるところであった。また、この会の形式や形態には講話や講演の他、児童生徒が何らかの形で参加することに期待が寄せられていることが分かった。

【キーワード】 学校保健委員会 健康課題

1. 研究の背景と目的

児童生徒の現代的な健康課題として、肥満・痩身、生活習慣の乱れ、メンタルヘルスの問題、アレルギー疾患の増加、性に関する問題のほか、時代の変化とともに新たに生じる多様な健康課題が挙げられている。¹⁾

こういった学校における児童・生徒の健康に関する諸課題を研究協議し、健康づくりを推進するための組織に学校保健委員会がある。学校保健委員会は、下の図-1のような構成をとることが多く、より地域に開いた委員会を地域学校保健委員会と呼ぶこともある。

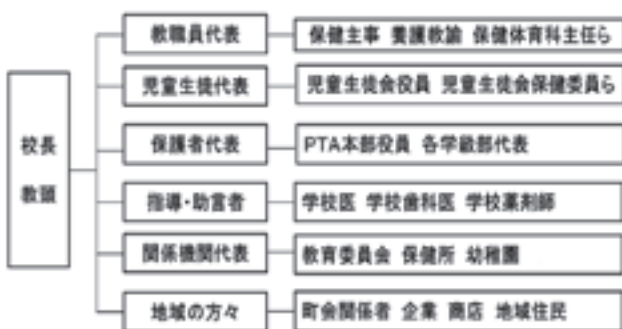


図-1 学校保健委員会の構成例

(出所 財団法人日本学校保健会 学校保健活動推進マニュアルを参考に筆者改定)

この組織の全国の平均設置率は、小学校 97.5%、中学校 96.5%、高等学校 94.2% であるが、殊に長

野県は小学校・中学校・高等学校とも 100% の設置率であり²⁾、年に 1 回以上開催されるのが通常となっている。つまり前述のような健康課題の改善や解決については、学校だけとか家庭だけといった単体で行うよりも双方または関係機関が連携して取り組んでいくことが大切であると認識されているという表れであろう。しかし、開催にあたっては「開催時間の設定や時間の確保が難しい」「議題や進め方がマンネリ化してきている」「一部の職員に負担がかかり共通理解が得にくい」「参加者が集まらない」などが課題として挙げられている³⁾。また、年 1 回のみの開催が多く、充実した議論が行われていないなど質的な課題がある⁴⁾とも指摘され、その機能についても見詰め直す必要を感じている。

そこで本研究は、長野県中信地区小学校の学校保健委員会の近年の内容をまとめ、学校保健委員会の現状について報告し、参加者への質問紙調査により学校保健委員会の活性化に繋げるための資料を得ることを目的とした。

2. 倫理的配慮

本研究は、松本短期大学研究倫理委員会の承認を得ている(承認番号 201702)。

学校保健委員会を主催する学校の学校長に研究の目的や調査内容を説明して承諾を得た後、学校保健委員会参加者には調査協力は自由意志であること、拒否しても何ら不利益は無いこと、個人が特定され

ることは無いことを説明し、質問紙の提出をもって同意とした。

3. 方法

①調査対象者

調査対象は、筆者が講師として招かれた2017～2018年度の7小学校の養護教諭と学校保健委員会の参加者293名であった。

②調査期間及び調査方法

調査期間は2017年8月～2018年9月のおよそ1年間で、無記名の選択式・自由記述式質問調査を実施した。

③調査内容

協力校の養護教諭には、過去3～5年の学校保健委員会のテーマや内容、参加者のおよその人数等についての記録提出を求めた。

また、学校保健委員会の全参加者に、属性、学校保健委員会の認知に関する質問、協議題として取り上げてほしい児童生徒の健康課題、希望する開催の形式や形態について質問した。その内、学校保健委員会を企画する側の立場の参加者（教職員の中で校務分掌により自己判断）には、推進上の困難点について質問した。

④分析方法

選択式質問については質問項目ごとに単純集計を行い、属性別の回答傾向を調べた。自由記述につい

ては意味内容が類似しているものを整理・分類した。

4. 結果

①近年の学校保健委員会のテーマ・内容等の現状について

協力校のうち4校の学校保健委員会のテーマや内容について次の表－1から表－4にまとめた。2013（平成25）年から2016（平成28）年までの4年間の取り組みについての記載をもとにまとめたものである。

- 各校に共通しているのは、
- ・年度ごとに「食育」や「生活習慣」など何らかのテーマが決められており、それについての講話や講演、討議が行われている
 - ・テーマとは別に報告の時間が設けられ、児童の身長や体重に関すること、う歯に関すること、体力に関することの報告がされることが多い
 - ・参加者は、学校職員の他に学校医や学校歯科医らとPTA役員に比較的固定されており、児童が参加する会は計画されておらず、またPTA役員以外の一般の保護者や地域住民はほとんど参加されていない
 - ・平日の夕方または夏休み中の平日の日中に開催されることが多く、いずれの学校も年1回の開催である
- の4点であった。

表－1 A小学校の学校保健委員会のテーマや内容等

年度	テーマや内容	参加者の属性とおよその人数	主な実施形態	開催回数 開催期日(開催時期) 会
H25	「食育について」～子どもたちに食の大切さを伝えるために～ ・食に関する実態調査(栄養士) ・学校の様子「弁当の日」について(養護教諭、校長) ・グループ討議「食について感じていること工夫していること」	学校職員22名 PTA役員25名 合計47名	・報告 ・グループ討議	年1回 平成25年9月11日(水) 16:00～17:00 学校パソコン室
H26	「〇〇っ子の体力と生活リズムを考えよう」 ・本校児童の姿 H25体力テストの結果から(体育主任) 定期健康診断の結果から(養護教諭) ・学校医の先生からお話 ・グループ討議「〇〇っ子の体力アップのためにできること」 発表	学校医1名 学校歯科医1名 学校職員13名 PTA役員22名 合計37名	・報告 ・グループ討議	年1回 平成26年7月30日(水) 13:30～15:00 (夏休み中) 学校パソコン室
H27	「防煙教育～〇〇っ子の明るい未来のために」 ・講演 出前授業の様子から(松本保健福祉事務所) ・グループで健康標語を考えよう ・学校医の先生のお話	学校医1名 学校歯科医1名 学校職員18名 PTA役員20名 合計40名	・講演 ・グループ活動	年1回 平成27年8月26日(水) 13:30～15:00 (夏休み中) 学校パソコン室
H28	「感染症に負けない〇〇っ子に～感染対策を学ぶ～」 ・本校児童の健康状態について(養護教諭) ・講演「学校家庭でできる感染対策」(松本医療センター看護師) ・学校医の先生のお話	学校医2名 学校職員18名 PTA役員19名 合計39名	・報告 ・講演	年1回 平成28年8月18日(木) 13:30～15:00 (夏休み中) 地区の支所会議室

表-2 B 小学校の学校保健委員会のテーマや内容等

年度	テーマや内容	参加者の属性と およその人数	主な 実施形態	開催回数 開催期日(時期) 会場
H25	『生活習慣改善のための取り組みについて』 ・生活改善アンケート結果(市教委・養護教諭) ・講義:睡眠の大切さ(学校医) ・グループ討議:早寝早起きを習慣化するための工夫(グループ発表)	学校医・学校歯科医・市 教委・PTA3役ほか学 級委員ら 学校職員全員	・報告 ・講義 ・討議	年1回 平成25年10月16日(水) 15:30~16:45 会議室
H26	『学校・家庭・地域で取り組む『きらり〇〇サンプラン』 ～メディアとのつきあい方を考える～』 ・「スマホ・タブレット端末等と今時の子どもたち」参加報告(養護教諭) ・グループ討議:各家庭でのメディアとのつきあい方(グループ発表)	学校医・学校歯科医・市 教委・PTA3役ほか学 級委員ら 学校職員全員	・報告 ・討議	年1回 平成26年10月15日(水) 15:30~16:45 会議室
H27	『食べる力をつけよう』 ・生活習慣病予防検診結果(市保健師) ・「食」についての講義(学校医) ・「食べる力をつけよう」(グループ発表)	学校医・学校歯科医・市 教委・PTA3役ほか学 級委員ら 学校職員全員 およそ50名	・報告 ・講義 ・討議	年1回 平成27年10月7日(水) 15:30~16:45 視聴覚室
H28	『子ども達のケガを減らそう』 ・怪我の様子(養護教諭) ・体力テスト結果(体育主任) ・講演「バランス能力を高める働き」(健康教育研究家) ・「それぞれの立場からできることを確認しよう」(グループ発表)	学校医・学校歯科医・市 教委・PTA3役ほか学 級委員らほか希望する保 護者 学校職員全員 およそ55名	・報告 ・講義 ・実技 ・討議	年1回 平成28年8月22日(月) (夏休み中) 14:00~16:00 体育館

表-3 C 小学校の学校保健委員会のテーマや内容等

年度	テーマや内容	参加者の属性と およその人数	主な 実施形態	開催回数 開催期日(時期) 会場
H25	『食育』 ・健康診断の結果報告(養護教諭) ・体力テスト結果報告(体育主任) ・食生活アンケート結果報告(栄養士) ・「食育」についてグループ討議	学校医・学校歯科医・学 校薬剤師・市栄養士・学 校教育課長・PTA三役・ 各クラス厚生部員・全教 職員 およそ40名	・報告 ・討議	年1回 平成25年11月6日(水) 15:15~16:45 学校会議室
H26	『食育』 ・健康診断の結果報告(養護教諭) ・食生活アンケート結果報告(栄養士) ・「食育」についてグループ討議	学校医・学校歯科医・学 校薬剤師・市栄養士・学 校教育課長・PTA三役・ 各クラス厚生部員・全教 職員 およそ40名	・報告 ・討議	年1回 平成26年10月22日(水) 15:15~16:45 学校会議室
H27	『子どもの意欲を高めるために生活習慣の中で大切にしていきたいこと』 ・健康診断の結果報告(養護教諭) ・体力テスト結果報告(体育主任) ・食生活アンケート結果報告(栄養士) ・「生活習慣(食事・睡眠・排便・運動など)についてグループ討議	学校医・学校歯科医・学 校薬剤師・市栄養士・学 校教育課長・PTA三役・ 各クラス厚生部員・全教 職員 およそ40名	・報告 ・討議	年1回 平成27年11月4日(水) 15:15~16:45 学校会議室
H28	『姿勢』 ・保健室から、健康診断の結果報告(養護教諭) ・体力テスト結果報告と本校のとりくみ(体育主任) ・食生活アンケート結果報告(栄養士) ・講演「子どもたちにおこないたい姿勢指導について」(姿勢指導士)	学校医・学校歯科医・学 校薬剤師・市栄養士・学 校教育課長・PTA三役・ 各クラス厚生部員・全教 職員 およそ40名	・講演 ・実技	年1回 平成28年11月2日(水) 15:15~16:45 学校会議室

表—4 小学校の学校保健委員会のテーマや内容等

年度	テーマや内容	参加者の属性と およその人数	主な 実施形態	開催回数 開催期日(時期) 会場
H25	「いっしょにつくろう 生活リズム！」 ・講話(指導及び情報提供)(学校医・学校歯科医) ・学校と家庭で連携して子どもを育てるサポートプラン	学校医・学校歯科医・教育委員会・保健師・民生児童委員・PTA3役、各学年学級委員・学校職員 およそ50名	・講話 ・討議 (情報交換)	年1回 平成25年10月30日(水) 3:30~4:50 学校多目的室
H26	「元気しらべを作ろう！」 ・学校からの報告(保健・給食・体育係) ・各学年での話し合い ・講師のお話(学校医・学校歯科医)	学校医・学校歯科医・教育委員会・保健師・民生児童委員・PTA3役、各学年学級委員・学校職員 およそ50名	・報告 ・討議 (情報交換)	年1回 平成26年11月6日(木) 3:30~4:50 学校多目的室
H27	「基本的な生活習慣を見直そうー朝食編ー」 ・学校からの報告(保健・給食・体育係) ・各学年での話し合い ・講師のお話(学校医・学校歯科医)	学校医・学校歯科医・教育委員会・保健師・民生児童委員・PTA3役、各学年学級委員・学校職員 およそ50名	・報告 ・討議 (情報交換)	年1回 平成27年11月5日(木) 3:30~4:50 学校多目的室
H28	・子どもたちの様子について報告(保健・給食・体育係) ・講演会「生きていく気力を育てる教育~〇〇学園の実践から~」 (講師 NPO法人代表)	学校医・学校歯科医・教育委員会・保健師・民生児童委員・PTA3役、各学年学級委員・学校職員 およそ50名	・報告 ・講演	年1回 平成28年10月19日(水) 2:45~4:20 学校多目的室

②質問紙の分析から

調査対象のうち285名から有効な回答が得られた。属性は、教職員が102名(35.8%)、教育委員会関係者が0名(0%)、学校医や学校薬剤師・保健師が2名(0.7%)、子どもの保護者が180名(63.2%)、その他が1名(0.4%)であった。

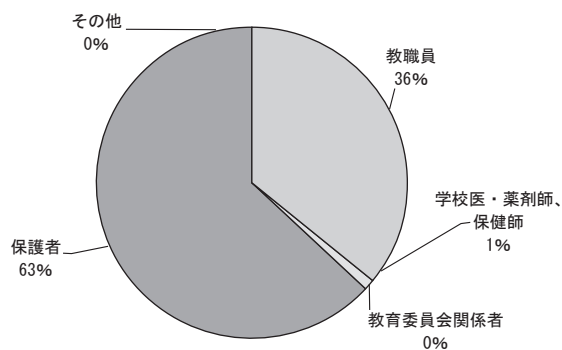


図-2 学校保健委員会参加者の属性別割合

学校保健委員会の組織や役割について、知っている人は132名(46.3%)、知らない人は153名(53.7%)であり、「知らない」が「知っている」を上回った。「知っている」保護者は180名中34名(18.9%)にとどまり、教職員の中にも「知らない」が5名(4.9%)いた。

協議題として取り上げたい児童生徒の健康課題(全参加者 複数回答可)としては図-3のような

結果となり、体力や運動能力について(55.6%)、生活習慣について(49.5%)、次いで心の健康について(48.1%)が多かった。さらに、「これらのうち最も気になる健康課題は何か」という質問についての回答(複数回答不可)を2大属性の教職員と保護者別に集計した結果が図-4である。教職員・保護者の両者とも気になる健康課題として挙げた上位3つ「生活習慣について」「体力や運動能力について」「心の健康について」は合致した。しかし、教職員が最も気になる健康課題として挙げた「生活習慣について」(54.3%)は保護者にとっては3番目(18.2%)であり36.1%の開きがあることが分かった。一方、「喫煙や飲酒について」「災害時の安全や環境に関すること」「性に関すること」の割合は低く、中でも「喫煙や飲酒について」が最も低い割合だった。

「学校保健委員会がどのような形式や形態で行われることが望ましいか・参加したいと思えるか」という質問に対しては、講演や実技伝達が最も多く(44.8%)、次いで児童生徒の発表(24.3%)であり、報告(7.4%)が最も少なかった(図-5)。

学校保健委員会を企画推進する際に最も苦慮することは「テーマや内容を決めること」(54.5%)であり次いで「参加者の確保」(22.7%)であった(図-6)。

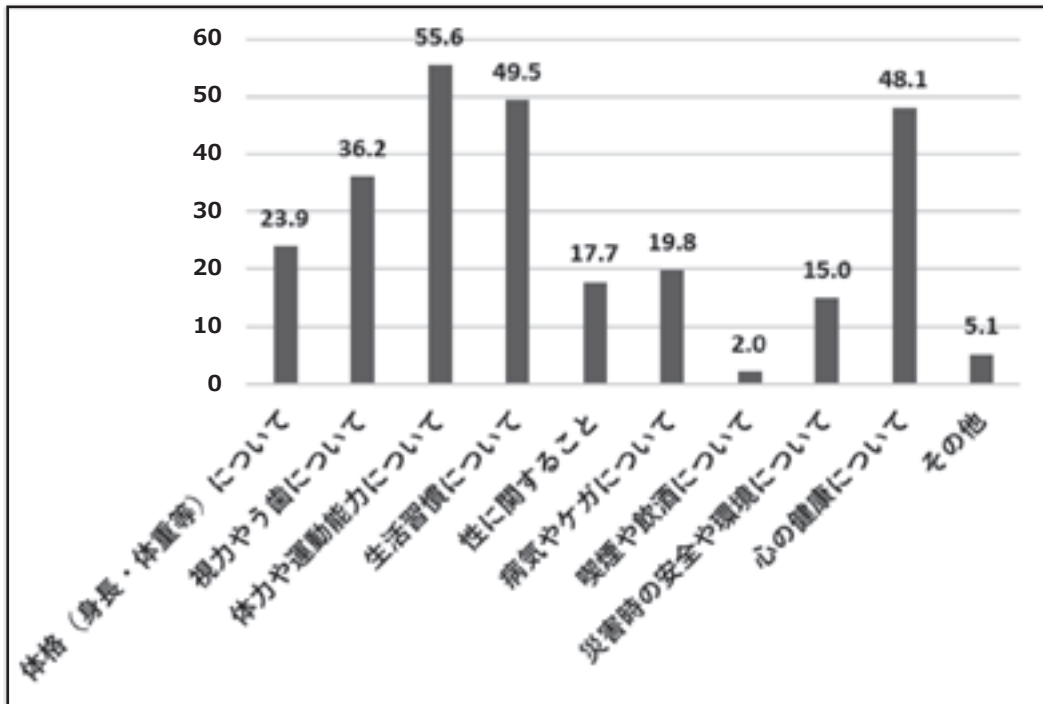


図-3 協議題として取り上げたい児童の健康課題
(全参加者 複数回答可)

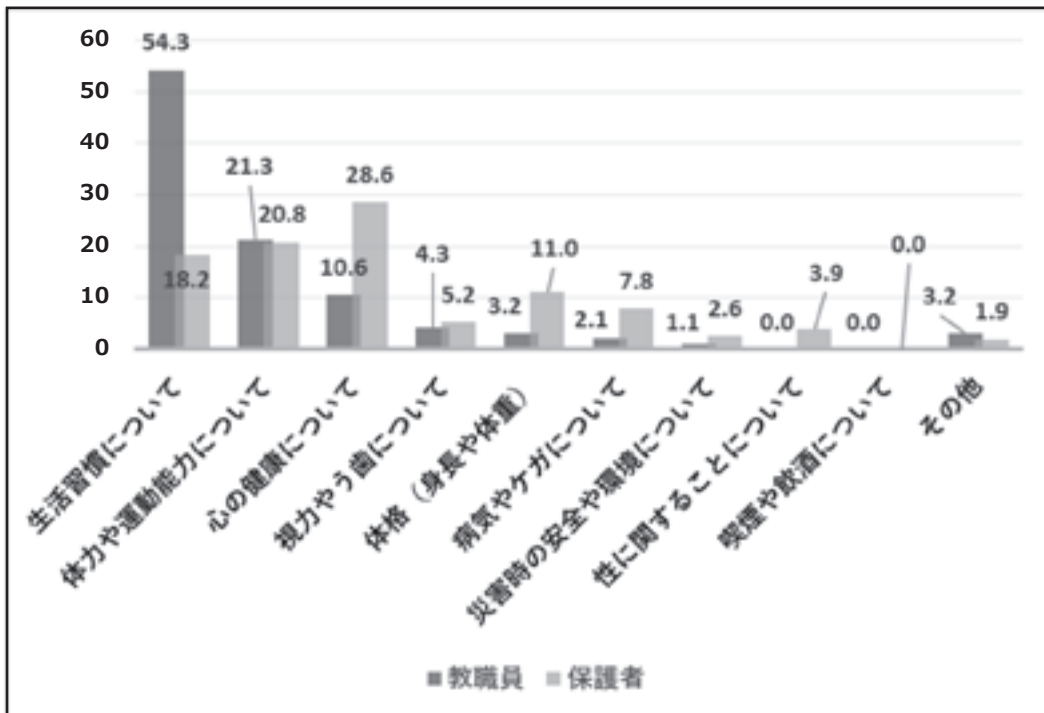


図-4 最も気になる児童の健康課題
(教職員・保護者別 複数回答不可)

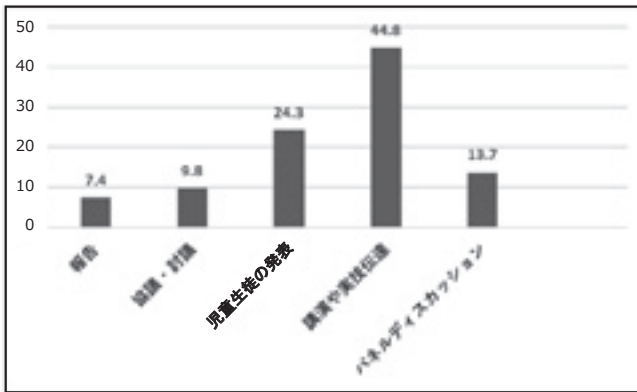


図-5 学校保健委員会に期待する形式や形態

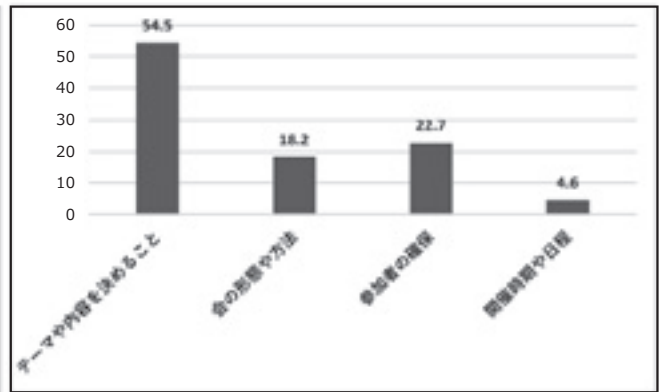


図-6 学校保健委員会を企画推進するにあたって最も苦慮すること

5. 考察とまとめ

長野県中信地区において学校保健委員会は、児童生徒の健康課題の解決を目指して、年1回何らかのテーマを設定して開催されている。そして、マンネリ化しないように形態も工夫されているように思われる。反面、学校保健委員会の役割や定期開催されていることなどに対する保護者の認知度は必ずしも高くなかった。また、教職員が気がかりとしている児童の健康課題と保護者のそれとは比較的大きな相違があり、問題意識に差が感じられた。

この会を企画推進する保健主事は、最も苦慮することに「テーマや内容を定めること」を挙げており、テーマや内容をどのように決めていくかが学校保健委員会の認知度や機能に関して大きなポイントになるところである。事前に学校保健委員会の方向を定めるための調査を実施するなどして、児童生徒の健康課題の実態や新たな問題等について教職員や保護者らが共通認識をもつことが不可欠である。

また、児童生徒が参加することについては課題解決に繋がる期待が寄せられている。児童会・生徒会の委員会活動が学校保健委員会の場で報告や提案をするような形式、あるいは保護者と共に討議する形態などを試みる価値はありそうである。ただ、中小規模の学校が多い長野県は、保健主事を養護教諭が兼ねることが多く、その養護教諭も各校1人配置のことが多い。保健室へ来室する子どもの人数の増加と来室理由の多様化に伴い子ども1人当たりの対応時間も増加しており⁵⁾、養護教諭は非常に多忙である。筆者は、X小学校での学校保健委員会において児童の報告の場や参加者との討議の場を設けた実践を報告した⁶⁾が、年度当初から準備するなど入念さは必要であった。したがって児童会や生徒会が無理なく参加できる方法を模索する必要があると考える。最後に学校保健委員会の開催後に、協議した内容を実践に繋げ活かすためにどのようなことが必要であるかという自由記述については、【学校

での授業や生活に取り入れること】【家庭で実践できるように工夫すること】【学校保健委員会に参加できなかった家庭など全家庭に周知したり共有したりする手だて】の大きく3つに分類できた。

冒頭で述べたように、児童生徒の健康課題は時代の変化とともに多様化してきている。成果が上がった取り組みや先進的な取り組みを参考にして、今後も組織的で継続的な実践が行われることが望まれる。

6. 文献

- 1) 文部科学省. 現代的健康課題を抱える 子供たちへの支援 ～養護教諭の役割を中心として～ (https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/_icsFiles/afieldfile/2017/05/01/1384974_1.pdf) (2020.6.15 閲覧)
- 2) 公益財団法人日本学校保健会. 平成29年度学校保健委員会の設置状況 (http://www.hokenkai.or.jp/katsudou/katsudou_gakkou_04.html) (2020.6.15 閲覧)
- 3) 公益財団法人日本学校保健会. 平成27年度「学校保健委員会に関する調査」報告書 (https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2016/09/16/1292844_03.pdf) (2020.6.15 閲覧)
- 4) 中央教育審議会(2008). 子どもの心身の健康を守り、安全・安心を確保するために学校全体としての取組を進めるための方策について(答申) (https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2009/01/14/001_4.pdf) (2020.6.15 閲覧)
- 5) 4)に同じ
- 6) 白金俊二・大槻祐美(2018). 児童が主体的に推進する保健活動ー地域学校保健委員会への児童会参加の試みー. 松本短期大学幼児保育学科研究年報第1巻. pp. 49-54.